

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさとを愛し、自ら学び高め合う、心身ともにたくましい岩松っ子の育成	① 学力向上の推進 ② 豊かなこころの育成

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 地域に開かれた信頼される学校運営

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	教育目標・方針等の周知、学校情報の提供	・教職員、保護者、学校評議員、地域への周知を図り、認知度90%以上をめざす。 ・学校の情報がわかると感じる保護者の割合を85%以上にする。	・教職員は職員会議で、学校評議員は学校評議員会で、保護者・地域の方々は育友会総会、HP、学校便り等で説明やお知らせをする。 ・岩松校区青少年の会議や活動の中で学校の教育活動を広報し、支援と協力を得る。
	○危機管理	児童の安全・安心の確立	・児童の交通事故発生を0にする。 ・年4回の避難訓練を実施し、児童及び職員の防災意識を高め、適切な避難行動ができるようにする。 ・安全・安心に配慮した教育活動が実践されていると感じる保護者の割合を85%以上にする。	・緊急時対応マニュアルを見直し、実態に即したものに更新する。 ・学校安全計画を基に安全教育を進め、安全指導を確実に実践していく。保護者への引渡しを想定した実効性のある避難訓練を実施する。 ・毎月の安全点検を確実に実施する。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の連携促進・業務効率化の推進	・「教職員の連携」についての教職員の肯定的評価を80%以上にする。 ・毎月の時間外勤務の全職員平均を45時間以下にする。	・報告・連絡・相談を徹底するとともに、四部会を中心として各担当の連携を密にし、職員間のフォロー体制を強化する。 ・学校行事・企画の精選、業務の効率化と分散化の視点を持ち、校務全体を見直す。 ・業務の効率化を図るため、市教委と課題を共有し、職場環境整備を進める。

② 確かな学力の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	児童の基礎学力の定着	・全国、佐賀県学習状況調査結果の同一児童経年推移を県比で3%上げる。 ・CRT(1～3年)の結果が全国平均と同等にあること。 ・小学級で、学習スタンダードチェックの合格項目4個以上にする。	・スモールステップを踏んで定着度チェックを行い、個に応じた補充指導を充実させる。 ・家庭学習の充実を図るため、「家庭学習の手引き」を効果的に活用する。家学(家庭学習)週間を学期毎に設け、学年に応じた家庭学習の時間の達成に取り組む。 ・「岩松小学校学習スタンダード」の指導を継続し、落ち着いた学習に取り組む学習規律の定着を図る。
	○教育の質の向上に向けた校内研究の推進	教職員の授業力の向上	・アンケートの「教員の授業力向上」で、児童と教職員の肯定的評価を85%以上にする。	・全体会での研究方針の共通理解を図る。 ・ことば(言語情報)を正しく獲得し、活用させるための単元づくりと授業を実践する。 ・語彙を広げるための指導と環境整備を進める。
	○読書活動	読書活動の推進ができたか	・図書館と連携し、児童一人当たりの貸出数を150冊以上にする。	・読書ボランティアによる読み聞かせを実施する。 ・魅力ある図書館にするためのイベントなどを工夫する。 ・本の紹介コーナーの掲示を充実する。 ・読書リレーを実施する。

③ 豊かな心と健やかな体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	認め合い支え合う学級・学校づくり	・子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合を90%以上にする。 ・学校が楽しいと感じる子どもの割合を90%以上にする。 ・自問清掃を頑張っていると感じている児童の割合を85%以上とする。	・月に1回の生徒指導会において、児童の実態を把握し、指導方針を全職員で共通理解した上で、児童が安心して過ごせる学習環境づくりに努める。 本年度は特に、(①あいさつ ②言葉づかい ③落ち着いた生活)について重点的に指導する。 ・自問清掃(がまん玉・みつけ玉・しんせつ玉)の取組を通して、児童の自律や思いやりの心を育て、みんなが安心して学ぶことができる学級・学校にする。
	●いじめ問題への対応	児童の人権感覚の向上、いじめや差別のない学級・学校づくり	・児童アンケートで、「いじめ0宣言を守っていると答える児童を90%以上にする。 ・保護者アンケートで、「いじめ防止の取り組みの成果が出ていると思うか」の問いに、「思う・だいたい思う」を合わせて80%以上にする。	・人権教室で、それぞれの学年に応じた話やエンカウンターを全職員で行い、児童一人一人の居場所づくりに努め、自己肯定感を高める。 ・「〇月の心」やQ-Uテスト、教育相談週間において、児童の実態を把握し、必要な対応を探りながら進める。 ・教育相談週間において、個別面談ができるように時間設定を工夫する。
	●志を高める教育	ふるさとへの誇りを持ち、自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・ふるさとについて学ぶ体験活動等を3年以上上学年で実施する。 ・児童アンケートでふるさとへの愛着を持っていると回答する児童80%以上にする。	・総合的な学習、生活科の年間計画に、地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や調べ学習等を位置付ける。 ・5、6年生対象に「岩松検定」を実施し、ふるさとへの関心や愛着を高める。 ・児童会主催で「祇園川クリーン作戦」を実施する。
	○特別活動	自主的実践的な児童会活動	・委員会活動や係活動で自分の役割を果たしていると感じる児童の割合を85%以上にする。	・児童集会や代表委員会、委員会活動で、一人ひとりに役割をつくり、活動する機会を保障する。 ・児童の思いや考えを生かした活動を大切にしている。 ・活動後に振り返りの時間を設け、活動を価値づける。
	○特別支援教育の充実	特別支援教育体制の確立と充実	・校内教育支援委員会を通して、対象児童の共通理解を図り、よりよい支援体制づくりをめざす。 ・対象児童の個別的教育支援計画・指導計画の作成率を100%にする。	・校内教育支援委員会を設置し、状況に応じた校内支援体制をつくり、対象児童への支援を行う。 ・子どもの特性の理解と具体的な支援についての校内研修を実施する。 ・対象児童の個別的教育支援計画・指導計画を確実に作成する。
	●健康・体づくり1	規則正しい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)の定着と健康な体づくり	・睡眠時間の確保(決められた時間に寝ている児童を50%以上にする) ・朝食喫食率及び食事の質の向上(朝食を毎日食べる児童の割合を95%以上にする。)	・「健康アンケート」により実態把握をし、適宜養護教諭、栄養教諭を中心に規則正しい生活習慣や食育に関する指導を推進する。 ・集計結果等をお便りとして発行したり、給食試食会で話をする場を設定したりして家庭との連携を図る。
	●健康・体づくり2	体力・運動能力の増進	・全校児童の体力向上を目指す。外遊びの割合、春70%以上、冬60%以上を目標とする。 ・児童アンケートで「体育のときや運動会などで、運動をがんばっている」と思う児童を85%以上にする。	・外遊びで使用する道具を使いやすいように準備する。 ・スポーツテストの実施方法や記録を伸ばすコツを目に見える形で提示する。 ・運動委員会主催で、縄跳び大会やマラソン週間など楽しく体力向上につながるような企画を工夫する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目